

〈授業改善推進プラン 国語科 第2学年〉

<p>1. 国語科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の考えを明確に伝えることができるようになる。 <p>(漢字・文法・言語事項・文章の構成や展開などの既習事項を用いる)</p> <ul style="list-style-type: none">・文章の構成を捉えて読むことができる。・国語での学びを他教科や学校生活で活かすことができるようになる。	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none">・意欲的に取り組む生徒が多い。・既習事項の定着が二極化している。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none">・漢字や文法などの知識・理解の問題を解答することができる。・文章で答える問題では無回答が多い。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none">・宿題や提出物を期限内に提出している。・授業中の指示や決まりを守って授業を受けることができている。	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <ul style="list-style-type: none">・授業中に教員の話をしっかり聞いている。・宿題をきちんとしている。・きちんとノートをとっている。・主人公の気持ちを考えて物語を読んでいる。・新聞記事を読むことがあまりない。・国語の授業の予習・復習をすることがあまりない。・話し合いで自分の考えを積極的に伝えることがあまりない。 <p>〈学力調査〉</p> <p>○「文法・語句に関する知識」</p> <ul style="list-style-type: none">・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すこと。・単語や文節について理解すること。 <p>○「作文」</p> <ul style="list-style-type: none">・指定された文字数で書くこと。・読み取った内容や意見を明確にして書くこと。☆伝えたい事実や事柄について根拠を明確にして書くこと。 <p>○…目標値を下回っている内容</p> <p>☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <ul style="list-style-type: none">・漢字や文法などの既習事項の定着。・指定された文字数で事実と意見を分けて書くこと。・話し合いや発表で自分の意見を積極的に述べること。	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)前年度の復習を繰り返し取り入れながら授業を展開する。</p> <p>(2)漢字テストや小テストを行い、生徒の定着度を確認する。</p> <p>(3)机間指導を行い、記述に困っている生徒には解き方のヒントを伝える。</p> <p>(4)作文の書き方や話型を示し、自分の考えを伝えやすくする。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p>

〈授業改善推進プラン 社会科 第2学年〉

<p>1. 社会科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <p>○基礎・基本の徹底</p> <p>社会科で基礎・基本となる用語や、資料・地図からの読み取りなどの技能を身に付けることができる。</p> <p>(例)歴史上の人名や出来事を答える。地形図を読み取る。</p> <p>○概念を理解した上で、説明したり課題を解決したり活用することができる。</p> <p>基礎的な知識・技能を身に付けた上で、それらを用いて説明したり((例)扇状地に果樹園が多い理由を説明する。もし立法、行政、司法の三権が分立していなければ、どのような問題が起こるか予想する)、実際の生活と結びつけて課題解決に結びつけたり((例)歴史上の出来事について、その経緯とさまざまな立場の声を紹介し、その意味を論評する歴史新聞を作成する。ハンバーガー店の店長になったつもりで、駅前のどこに出店すべきかを考えて、企画書にまとめる)することができる。</p>	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none">・授業に積極的に参加する生徒が多く、発言も多い。・漢字を苦手としている生徒が多く、教科書本文を読んだり、用語を覚えたりすることに苦戦している生徒もいる。・社会的事象への関心に個人差がある。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none">・応用的な問題にもしっかりと対応できる生徒と、基礎・基本的な用語が身に付いてない生徒と二極化してしまっている。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none">・漢字を苦手としている生徒が多く、用語の定着に苦労している。	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <ul style="list-style-type: none">・授業や宿題にはしっかりと取り組むことができている。・家庭での予習・復習があまり定着をしていない。・ニュースを見たり、社会のことで気になることを調べたりする習慣が身に付いていない。 <p>〈学力調査〉</p> <ul style="list-style-type: none">○歴史「飛鳥時代～平安時代」「地球の姿をとらえる」☆学習してから時間が経過したものについての正答率が低い。○…目標値を下回っている内容☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容
<p>4. 学習の課題について</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎・基本的な用語の定着(特に学習して時間が経過したものの定着が弱い)・応用的な問題への対応・課題を自ら見付けること・社会的な事象に対する興味・関心を高めること	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)予習や復習の仕方を改めて指導したり、単元ごとに確認テストを行ったりして、基礎・基本的な用語が定着するようにする。</p> <p>(2)授業の中で、考えたり調べたりする時間を設け、知識や技能を活用する練習を行う。</p> <p>(3)ニュースや新聞のレポートを定期的に宿題にすることで、社会の出来事への興味・関心を高める。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p>

〈授業改善推進プラン 数学科 第2学年〉

<p>1. 数学科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <ul style="list-style-type: none">・基本的な知識や技能を習得し、どの知識や技能を用いるか適切に選択して、自ら問題を解くことができる。・既習事項をもとに筋道を立てて、新たな課題を解決したり、公式を導いたりすることができる。・日常生活において必要な情報を選択・判断し、数学を活用して課題を解決することができる。	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none">・授業に前向きに取り組む生徒が多い。・宿題や提出物に丁寧に取り組む生徒が多い・学習意欲や習熟度の差が大きい。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎的な知識や技能を問う問題の正答率が低い。・思考力、判断力、表現力を問う問題の正答率が極端に低い。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none">・多くの生徒が、授業を受けることが「楽しい」と感じられると答えている。・理解のために予習・復習をあまり行っていない。・苦手意識をもつ生徒が多い。	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <ul style="list-style-type: none">・授業では、先生の話をしっかり聞いている。・授業では、きちんとノートをとっている。・宿題をきちんとしている。・授業のための予習や授業で習ったことの復習をあまりしていない。・授業で分からないことがあっても、先生にあまり質問をしていない。 <p>〈学力調査〉</p> <p>○「1次方程式」、「比例・反比例」、「平面図形」</p> <p>☆「文字式」</p> <p>○…目標値を下回っている内容</p> <p>☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <ul style="list-style-type: none">・基本的な知識や技能の定着。・既習事項を活用して課題を解決すること。・日常生活における問題において数学を活用して解決すること。	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)基本的な知識や技能の向上のため、宿題や小テスト等により反復練習を行う。</p> <p>(2)ペアやグループで学び合うことで、知識や技能の定着を図るとともに、習熟度の差を縮める。</p> <p>(3)ICTを取り入れた授業を展開し、板書とワークシートを対応させやすくする。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p>

〈授業改善推進プラン 理科 第2学年〉

<p>1. 理科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <p>学習指導要領に示された「育成すべき資質・能力」の評価に対する問いについて、教科書「新しい科学」の各単元全章に設定された「Before & After」を活用する。これは、見通しを立てる「Before」と振り返る「After」と位置付けられてある。生徒の意欲を引き出し、学ぶ意味を自覚させるうえで極めて重要な役割を果たす。ノートや chrome book に記録させ、生徒の変容を比較できるようにする。なお、この問いは回答に幅をもたせているため学習前であっても、生徒は既習事項や生活経験などを通して何らかの情報や知識をもっているため、回答が可能であるという点が重要である。この学習によって、深化(変容)を生徒が自覚(自己評価)することが学びに向かう力を促進させる働きをもつ。</p>	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組む生徒が多く、発言したり、グループでの話し合いをしたりしている。 ・観察や実験に興味、関心をもって行っている。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な問題を解答することはできるが、記述式や思考力、判断力が伴う問題への解答の正解率が極端に低い傾向にある。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や学習内容に興味をもつことはできるが、苦手意識をもつ傾向にある。 	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業をしっかり聞いて、ノートを取っており、学習内容を理解しているという生徒がほとんどである。 ・宿題をやっている生徒が多い。 ・理科の授業の予習、復習をしている生徒が少ない。 ・自然科学に興味をもって本を読んだり、テレビ番組を見たりする生徒が少ない。 <p>〈学力調査〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「気体の性質」と「水溶液の性質」に課題がある。 ・計算を含む問題は正答率が低かった。 ☆身のまわりの物質とその性質、 ・器具の使用方法について理解が不十分である。 ○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容
<p>4. 学習の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験といった体験や実践に対しては興味、関心をもち積極的に取り組むことができるが、そこから科学的な見方、考え方を働かせながら、知識及び技能を習得したり、思考、判断、表現したりすることに難しさを感じている。 	
<p>5. 授業改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学的に探究する力を育成するため、自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析し解釈するなどの活動を多く行う。 	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p>

〈授業改善推進プラン 音楽科 第2学年〉

<p>1. 音楽科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <p>(1)学習した内容が、目標とする演奏に役立つことを実感する。</p> <p>(2)学んだことを活かして、表現を工夫することができる。</p> <p>(3)課題を言語化することで、個人及び集団で意識を共有し、演奏の向上に役立てることができる。</p>	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <p>・異学年交流を定期的に行ってきたことで、音楽活動を後輩に伝えようとする意欲が高まった。そのため自己の理解を深めようとしたり練習に一層意欲的になったりする生徒が増えた。</p> <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <p>・考査に向けた準備を授業内容で増やした結果、これまでよりも学習が増えたと思われる生徒が増えた。記述式の問題を増やし、授業内容を振り返る問題を取り入れたところ、自己の課題と成果を意識できている生徒が多かった。</p> <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <p>・個人やグループ練習で技術的な課題を意識している生徒は多いが、課題を他の生徒と共有するなどして克服しようとする力が弱い。</p>	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <p>実施せず</p> <p>〈学力調査〉</p> <p>実施せず</p> <p>○…目標値を下回っている内容</p> <p>☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <p>器楽の練習では読譜等の音楽知識が土台となるため、演奏前の準備をいかに分かりやすくスムーズに行うかが学習達成度を左右する。授業の中で個別指導を充実させること、グループ活動の学び合いで定着させることが授業全体の課題である。</p>	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)個人の課題をグループ練習で共有しやすくする工夫を行う。グループ練習に適した教材により課題を複数で克服する活動を増やす。</p> <p>(2)振り返りを次の練習に生かし、積み重ねを意識させる。</p> <p>(3)個々の技術面向上のため、各楽器指導を充実させる。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p>

〈授業改善推進プラン 美術科 第2学年〉

<p>1. 美術科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <p>知識と技術は制作の両輪である。「わかる」の上位が「できる」だとは限らず、「できる」が先にきて、後から理由付けできて「わかる」になることもある。「わかる」が知識的なものであると考えると、「できる」は技術的なものであると考えられる。知識的なことをスタートとし、一度やってみる。やってみた経験の上に、もう一度知識的な裏付けができ、それを制作につなげることで、知識と技術の関連付けを行う。「わかる」と「できる」が交互に繰り返され、そのつながりが「使える」になるような授業展開を考える。</p>	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものを作るのが好きな生徒が多いが、よく考えて作っている生徒は少ない。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識的なことを問う場合は、勉強不足で正答率は高くない。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作には前向きであるが、テストにはあまり積極的になれない生徒が多い。 	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <p>実施せず</p> <p>〈学力調査〉</p> <p>実施せず</p> <p>○…目標値を下回っている内容</p> <p>☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <p>時間をかけると良い作品はできる。考えて工夫をすることもできる。しかし、与えられた時間の中で完成させていくことも必要である。生徒によって、作業にかかる時間に幅があるのが現実で、その放課後等のフォローの在り方を考える。また、授業時間を有効に使うということも、大前提として考えていく。</p>	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)定期考査に向けての学習が足りていない生徒がいた。どういうふうに取り組んでいくべきかを、授業を通して伝える。</p> <p>(2)忘れ物、おしゃべりがとまらない生徒がおり、その生徒の作品が進まないことと、授業が落ち着きがなくなりうるさくなるのが気になる。自分の作業に集中できるような空気を作っていく。</p> <p>(3)忘れ物が多く、自分で作業を進めることができない生徒が数名おり、進度に大きく差が生まれる。スモールステップで放課後にフォローしたりして、差を埋めていくようにする。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p>

〈授業改善推進プラン 保健体育科 第2学年〉

<p>1. 保健体育科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <p>体育の授業では、頭で「わかる」だけでなく、自身のからだで「できる」ことが大変重要となる。しかしながら、体力の実態に個人差があることは事実であるため、個々の生徒やグループの実態に応じた課題を設定し、それぞれが課題解決の経験を多くすることで「できた」という成功体験を積み重ねる授業を展開していく。また、その中で互いに認め合う機会を多くすることが必要となる。</p> <p>保健の授業では、「わかる」だけでなく、行動・実践に移すことが必要となるため、実際の自分の生活などと照らし合わせるなど、自らの生活と関連づける授業を展開していく。</p>	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かすことへの抵抗や、苦手意識は高くない、どの生徒も積極的に身体を動かすことができる。 <p>〈考查(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テストの結果からは、授業で触れた知識がきちんと習得されていることがうかがえる <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト前に集中して学習する生徒が多いため、継続して学習することができていない生徒が多く見られる。 	<p>3. 体力テストの結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子はどの項目も都と全国の記録を上回っていた。しかし、握力、20mシャトルラン、立ち幅跳びでは平均近くの数値だったため、来年度は更に向上できるように生徒に働きかけていきたい。 ・女子はほとんどの項目で都と全国の平均を上回ったが、20mシャトルランと立ち幅跳びで全国の平均を下回った。 <p>男女とも身長や体重などの体格が大きく平均を下回っていた。</p> <p>○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <p>体力値は、都や全国の平均値と比べても高い数値を示しており、運動に対する意欲も高い。球技や、陸上競技など、特定の単元に特化した技術や体力を習得している生徒が多いため、体育の授業の中で、幅広い分野の運動領域を経験させることで、様々な技術や体力を向上させていく必要がある。</p>	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)生徒に応じた課題を設定し、課題解決の経験を多くする。</p> <p>(2)グループ活動など、関わり合いの中での学習活動を多くしたり、ICT 機器を活用したりすることで自他の運動を客観的に評価させる。</p> <p>(3)授業の単元ごとに、関連して高まる体力を解説し、その体力を意識して授業に取り組めるようにしていく。</p> <p>(4)2年生女子は20mシャトルランと立ち幅跳びが全国平均を下回ったので、補強運動の中に跳躍系の運動を入れることと、各単元で運動量を確保することで心肺機能を高めていく。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p>

〈授業改善推進プラン 技術科 第2学年〉

<p>1. 技術科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <ul style="list-style-type: none">・知識で終わることなく、実践し、改善していくことをする授業を行う。・自分で考え工夫していくことができる授業を行う。	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none">・好奇心を持って授業に取り組み、製作に積極的を行っている。・細かな作業をすることが困難な生徒が存在する。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none">・知識や理論について理解が難しい。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <p>楽しく授業を受けることができているが、知識や理論について興味関心が低い。</p>	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <p>実施せず</p> <p>〈学力調査〉</p> <p>実施せず</p> <p>○…目標値を下回っている内容</p> <p>☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <p>知識や理論について授業を始め、少しでも難解な箇所があると、興味関心が低くなり、理解度が落ちる。細かな作業をすることに対して、苦手意識が強い生徒が存在し、作業精度が極端に落ちる。</p>	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)興味関心が高まる教材と関連のある話題を準備する。</p> <p>(2)動画やアニメーションを用いて、わかりやすい教材を準備する。</p> <p>(3)知識や理論が実際にどのように役立っているか実例を用いて説明する。</p> <p>(4)作業を細分化して、見通しをもたせる授業構成にする。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p>

〈授業改善推進プラン 家庭科 第2学年〉

<p>1. 家庭科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <ul style="list-style-type: none">・家庭実践を通して知識・技能の定着をさせる授業 <p>家庭科は、生活に直結する教科であるため、学習した知識や考え方を、生活の中で実践することが、定着に繋がると考える。そのため、家庭実践の機会を多く設けていく。</p> <ul style="list-style-type: none">・考えを表現する機会を多く設けた授業 <p>「家族・家庭生活」「心地よい住まい方」「布を用いた製作」等、答えのない課題について自らの考えに自信をもって表現できるように、意見を発信する機会を多く設けていく。</p>	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none">・話し合い活動や発表活動について、意見を積極的に出している。・他者の意見に、共感したり問い返しをしたりすることができる。・基礎・基本の知識の理解はできているが、定着ができていない。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の考えを文章で表現できてない生徒が多い。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none">・調理実習や製作、実験に興味関心をもって取り組んでいる。	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <p>実施せず</p> <p>〈学力調査〉</p> <p>実施せず</p> <p>○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <ul style="list-style-type: none">・知識、技能の定着を図れていない。・調べ学習を自分の言葉でまとめることができない。	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)学習した知識・技能について家庭実践の機会を増やす。</p> <p>(2)レポートや調べ学習の「まとめ方」をもう一度説明し、繰り返し学習機会を設けることで、相手にわかりやすく伝えるための表現力を養う。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p>

〈授業改善推進プラン 英語科 第2学年〉

<p>1. 英語科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <p>・英語を使えるようになることを目的として授業を構築している。教科書の内容に関連した資料だけでなく、日常的な話題にも触れ、視座を養いつつ、多様な切り口を提供し、興味をもって学習に臨めるようにしている。</p> <p>・応用的な学習ばかりでなく、基礎的な学習も取り入れ、フォニックスや音読を始め、基礎的な文法事項も定期的に扱いつつ、らせん状に英語力を培っていきたい。</p>	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <p>・やるべきことがわかると学習に取りかかることができる。一つのことに集中しすぎて、切り替えができないことがある。</p> <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <p>・半数以上の生徒が学習範囲を理解し、復習に取り組んでいた。話すテストに関しては概ね、よく取り組んでいた。</p> <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <p>・読字や書字に苦手意識のある生徒は、英語を難しいと捉える傾向にある。</p>	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <p>授業を分かっていると認識している生徒とそうでない生徒で二極化している。</p> <p>〈学力調査〉</p> <p>○読むこと</p> <p>○書くこと</p> <p>※とりわけスペリングや文法事項の間違いなく正確に書くこと</p> <p>○…目標値を下回っている内容</p> <p>☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <p>「英語を使って何かをする」といった活動を行う際に、フォニックスや音読などの聞くことや話すことに関わる基礎的な活動へのつまずきが見られる。また語彙や文法についても、数回程度の繰り返しで終わるのではなく、繰り返し学習する頻度を上げ、習得が求められる。</p>	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1) 音読シートを用い、発音やイントネーションを確認した後で、適切に音読することができるかというテストを定期的に行う。また、生徒同士が相互に学び合える活動にする。</p> <p>(2) 基礎的な文法事項の習得を確認できる小テストを、タブレットを用いて定期的に行う。</p> <p>(3) 教員に対して質問できるようにオフィスアワーを設け、授業中に質問できなかったことも吸い上げられるようにする。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p>